



わかくさ



10.18 防災総合訓練

若草園では福祉施設における避難訓練が義務づけられています。この日は総合訓練として実際に119番通報をしたり、消火器を使ったり総合訓練を行いました。

暮秋の候



枯葉が名残惜しそうに枝を離れていき、秋の終わりを告げようとしています。そろそろ、冬物の装いが必要のようです。

この夏、「17NJ」が石川県で開催され、全国から13,000人のスカウト隊と指導者がテーマである「冒険～能登のチカラ未来へ～」を掲げて、スカウトたちは様々な冒険にチャレンジしました。当園の中学生もこの夏、観測史上最高の気温を記録する「暑い夏」と、全国のスカウトたちとの「熱い交流」を体験してきました。7日間のテント生活を、大きく体調を崩すことなくやり終えたスカウト隊、指導者を逞しく思ったことでした。

また、「高校生インケアユースの集い」に参加し、自分の意見をいうこと、人の意見を聴くことの意味を学ぶ機会を経験し、他施設の高校生たちとの交流も楽しみました。

更に、各ホームは恒例のサマーキャンプを企画し、海や川での夏ならではの楽しい体験をしたことでした。夏休みといっても子ども達はスケジュール満載で、加力学習や大会に向けての水泳練習等にて登校する日が多く、忙しく過ごしましたが、頑張った成果が良い記録として表れた子どももおり大きな自信へと繋がりました。

今年もオレンジリボンキャンペーンとして「子ども達の笑顔と明るい未来のために」を訴えて街頭パレードと講演会を企画し、盛況の内に終えることができました。沢山の方々にご支援を頂きました事を、実行委員会を代表致しまして深く感謝申し上げます。

筆末ながら、昼夜の温度差があるこの季節、体調を崩しやすくなりますので十分に自愛ください。



施設長

福留久美

育児相談窓口

児童家庭支援センター
わかくさ

でんわ (0880)
33-0258
24時間
365日無料

オレンジリボンキャンペーン



児童家庭支援センター相談員 植木美和

オレンジリボンキャンペーンとは、子ども虐待防止の象徴である「オレンジリボン」を広める全国的な市民活動です。「オレンジリボン」には、子ども虐待の現状を広く知って頂き、子ども虐待をなくしていかう、子どもを救うため、一人一人ができることを考え、行動しよう、そして虐待を受けた子ども達が幸福になれるように、との願いがこめられています。高知県では県内の4つの児童家庭支援センターを中心に、実行委員会を結成し、地域の方々のご協力を得て地域ぐるみでオレンジリボンキャンペーンに取り組んでいます。2009年から活動し、今年で記念すべき10回目を迎えました。

10月21日(日)は秋晴れの下、帯屋町アーケードを100名を越える参加者の方々、関係機関の方々とともに、ウォークを行いました。パトントワリング部の演舞と共に、吹奏楽部のマーチング演奏で明るくにぎやかにウォークを行うことができました。街行く多くの方々に、オレンジリボンを知って頂けたと実感しております。

10月27日(土)と28日(日)は、児童精神科医である吉川徹先生をお招きし、「発達障害をもつ子どもへの虐待対応」早期からの家族支援」と題した講演会を、宿毛市と佐川町でそれぞれ行いました。昨年に引き続き吉川先生に来て頂き、発達障害の特性や支援の具体的な方法、家族や地域での支援のあり方、その結果虐待予防につながるというお話をわかりやすく教えて頂き、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。催し物に参加して下さいました方々、ご協力して下さいました方々、本当にありがとうございます。「子どもと家族の笑顔のために」今後ともオレンジリボンキャンペーンへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

【平成30年度虐待防止標語】

未来へと命を繋ぐ 189



平成30年度上期 ご寄付一覧表 (H30. 4. 1 ~ H30. 9. 30)

皆様にご心から感謝申し上げます。 < 50音順・敬称略 >



* 寄付物品

足摺農園
岡本昌子
小椋茂昭 (3回)
片足長おじさん
黒岩将 (2回)
斎藤正七郎
四万十教遊社 岡本真一
曾根商店
田能まな
野並自転車
パチンコホームラン (3回)
水田 (2回)
水野小百合 (5回)
宮村忠道
メイヤの樹 望月和弘
山本
一般財団法人 リブレット基金事業財団
⇒ 17人 27口 時価総額 ¥161,600



近藤信子
佐竹 敬
四国岩谷産業(株) 中村営業所
四万十教遊社
下田小学校職員有志
白木保険事務所
(株)すみれ薬局
高橋一紀
多田和枝
新見時治
沼原利彦
間 敦子
平岡朋也
藤原啓正
増田裕税理士事務所
宮村禎介
山崎捷二
山本咲月
佐竹和平
澤田 敬
芝 雅人
高畑 勉
田中則明
西村真彦
野並嘉好
濱崎初子
福田 稔
本田三津代
松岡紀夫
森田智枝
山本康代
⇒ 43人 ¥279,000

* 寄付金

今倉俊子
上原 準
大川筋地区 民生委員児童委員
岡崎光慶
小島ガス
黒岩 将
高知ペンテコステ教会
植田葬儀社
大塚紀美
岡崎由佳
上岡 征
小松道明

* ボランティア

Arwitt Attic Hair Makers Co.
→ 理容
若草園を支える会 → 機関誌発送作業
(株)日本公文教育研究会
→ 運営指導
(福) 栄光会 理事 矢野川研
→ 児童学習指導

編集後記

児童養護施設、自立援助ホーム、ファミリーホーム、里親家庭を退所し、自立生活をしている方で、困っている事はありませんか? お気軽に相談してください。

Tel (090)5912-1785

専門相談員 岡崎光子

9:00 ~ 17:00 (緊急の場合は24時間対応します)

<< 無料 >> (通話料はかかります)

11月は厚生労働省が平成16年から実施している「児童虐待防止推進月間」。本来ならば高知オレンジリボンキャンペーンもこの月間に合わせてイベントを展開したいところであるが、この時期は各種文化的行事が多く、会場を押さえつらいために前倒しで実施しているとのこと。▼写真ページにもあるが、この時期、夕焼けがきれいなオレンジ色になることが多い。レッドリボンはエイズ&薬物乱用防止、ブルーリボンは拉致被害者、ピンクリボンは乳がん撲滅など、各色リボンキャンペーンは増えている。この季節、夕日を見るたびに「子どもの笑顔」を思い起こし、子どもと向き合うことを思い起こしていただきたい。▼今号では寄付とボランティアの報告や各種イベントご招待の記事もあり、若草園を支える会役員の紹介もさせて頂いた。現在、児童養護施設の運営費は徐々に社会保障制度の中で充実していただいている。今、児童福祉界に必要なものは、お金や物やサービスばかりではなく、世の中の関心が一番かもしれない。(せと)

